

8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無
 - (3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動
-

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

問30 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

■「ごみと資源の分別を実行している」が約9割、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が8割弱

ア 単純集計・経年比較／環境のために心がけていること

(ア) 環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっている。

- ①「ごみと資源の分別を実行している」(89.0%)
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(78.3%)
- ③「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(57.5%)
- ④「外出時に食べられる分だけ注文する」(55.7%)
- ⑤「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.9%)

(イ) 前回調査と比較すると、ほとんどの項目で割合が増加しており、「外出時に食べられる分だけ注文する」(7.3ポイント)と「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(5.0ポイント)で5ポイント以上の増加となっている。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

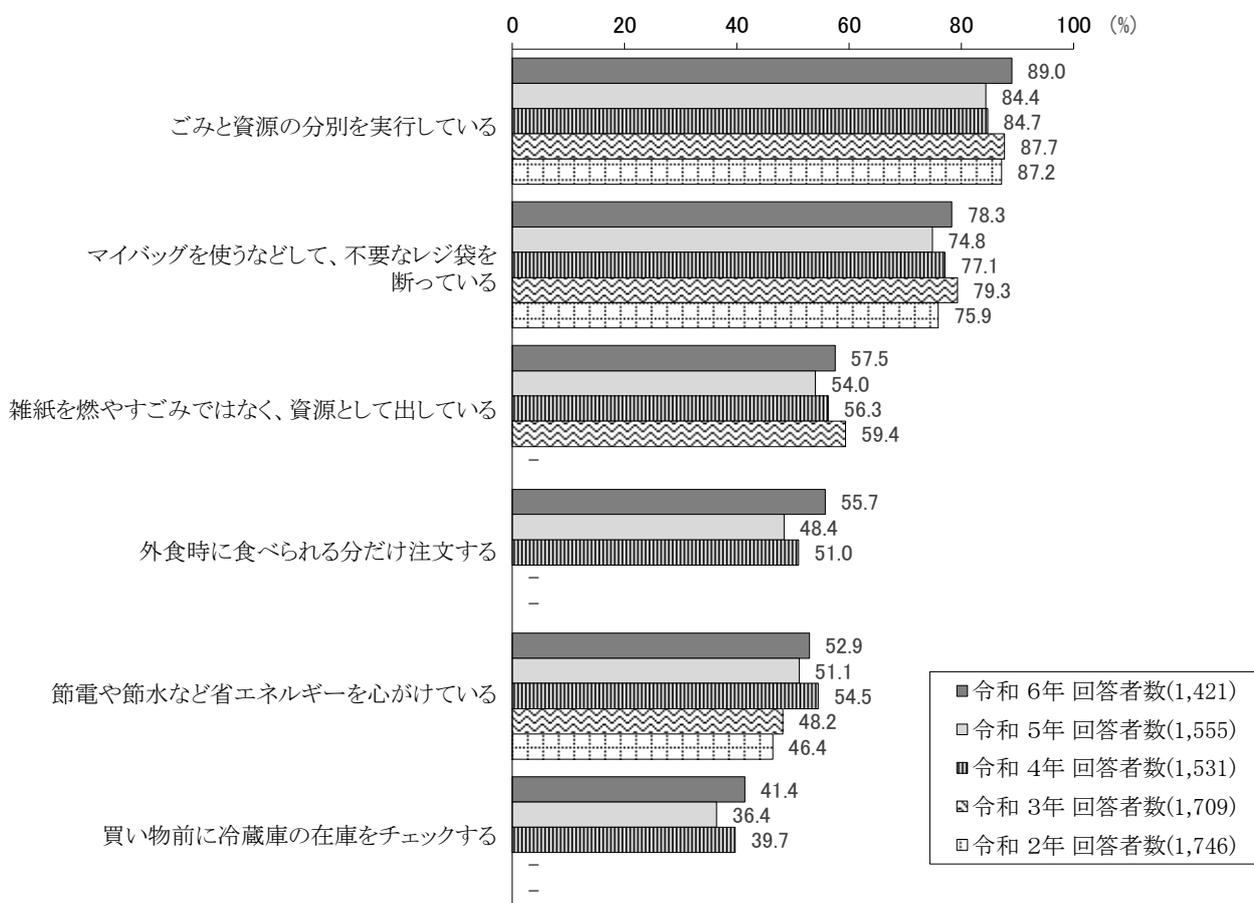
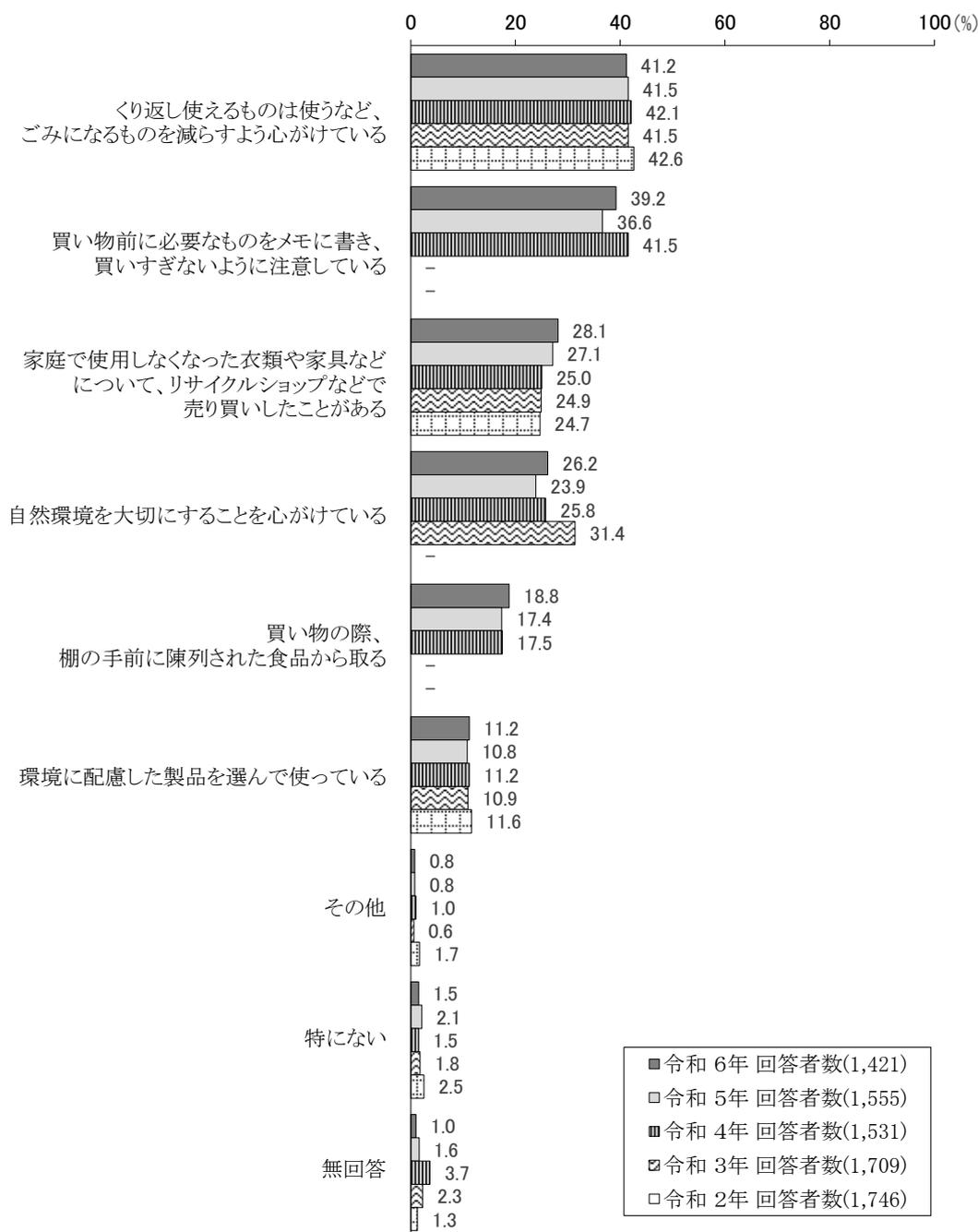


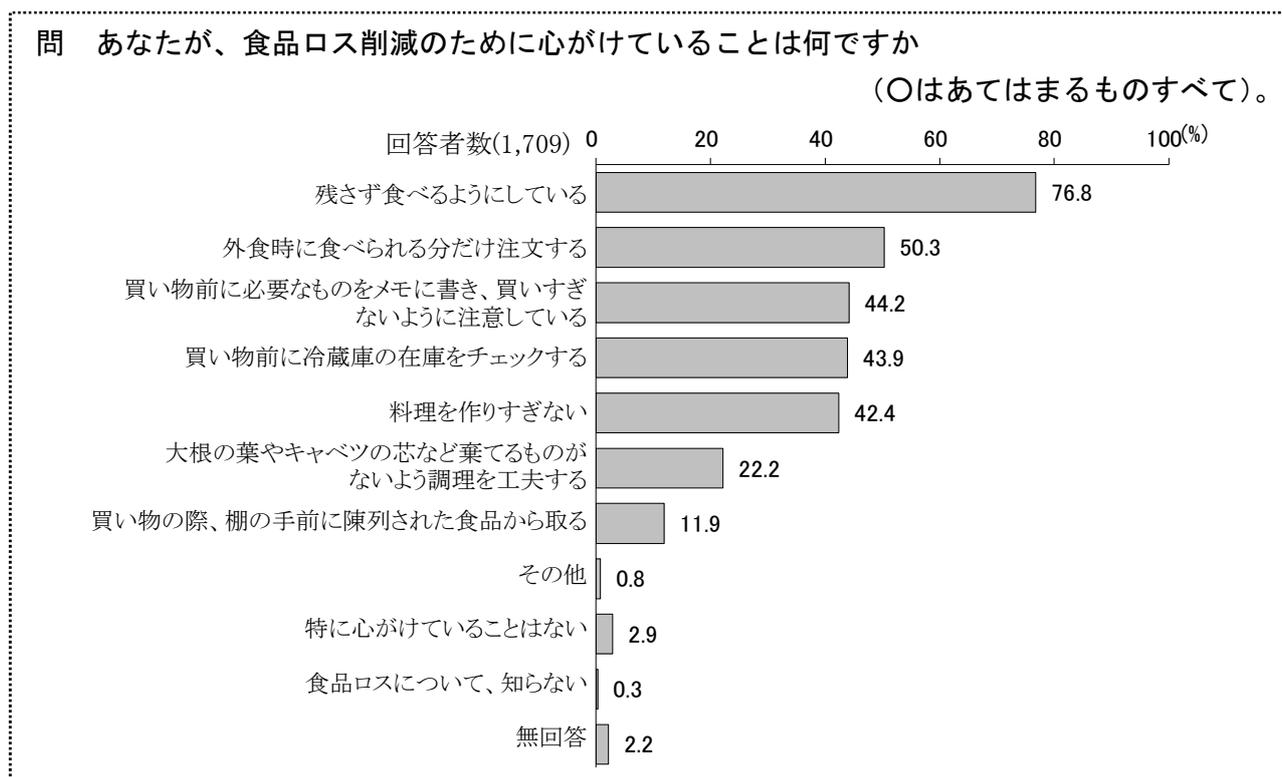
図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



※「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」と「自然環境を大切にすることを心がけている」は令和3年度新設。

※「外食時に食べられる分だけ注文する」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る」の4項目は令和3年度まで「食品ロス削減のために心がけていること」についての設問で聴いていたが、令和4年度から本設問に統合。

参考／（令和3年度）食品ロス削減のために心がけていること

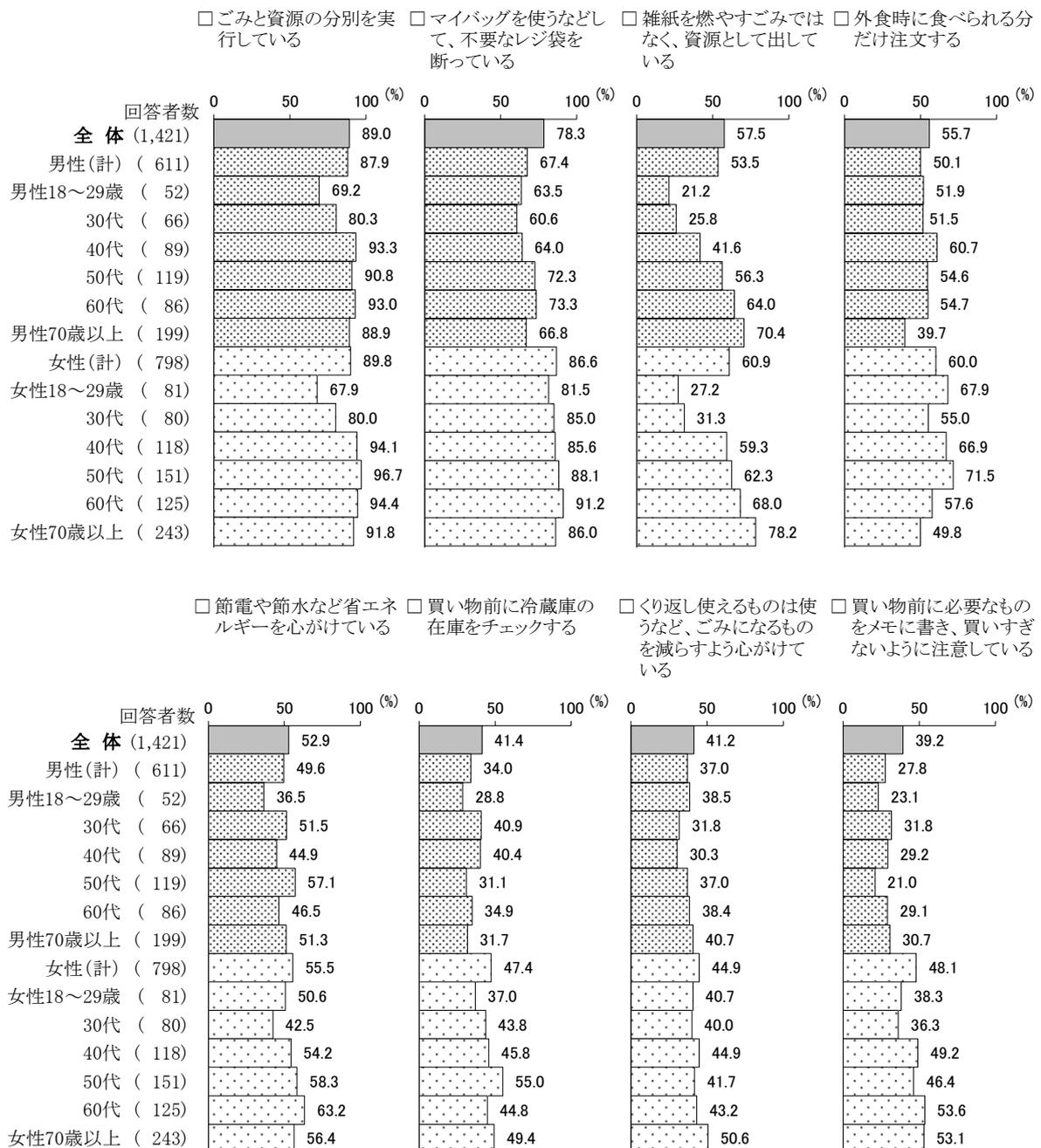


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境のために心がけていること（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、特に、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（+20.3ポイント）、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（+19.2ポイント）、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（+13.4ポイント）で女性の方が10ポイント以上高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「ごみと資源の分別を実行している」は、男女ともに40代以上で9割弱から9割台半ばと高く、18～29歳では6割台と低くなっている。「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は年代別の傾向は見られないが、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」では、男女とも年代が上がるほど割合も高くなる傾向が見られる。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること／上位8項目



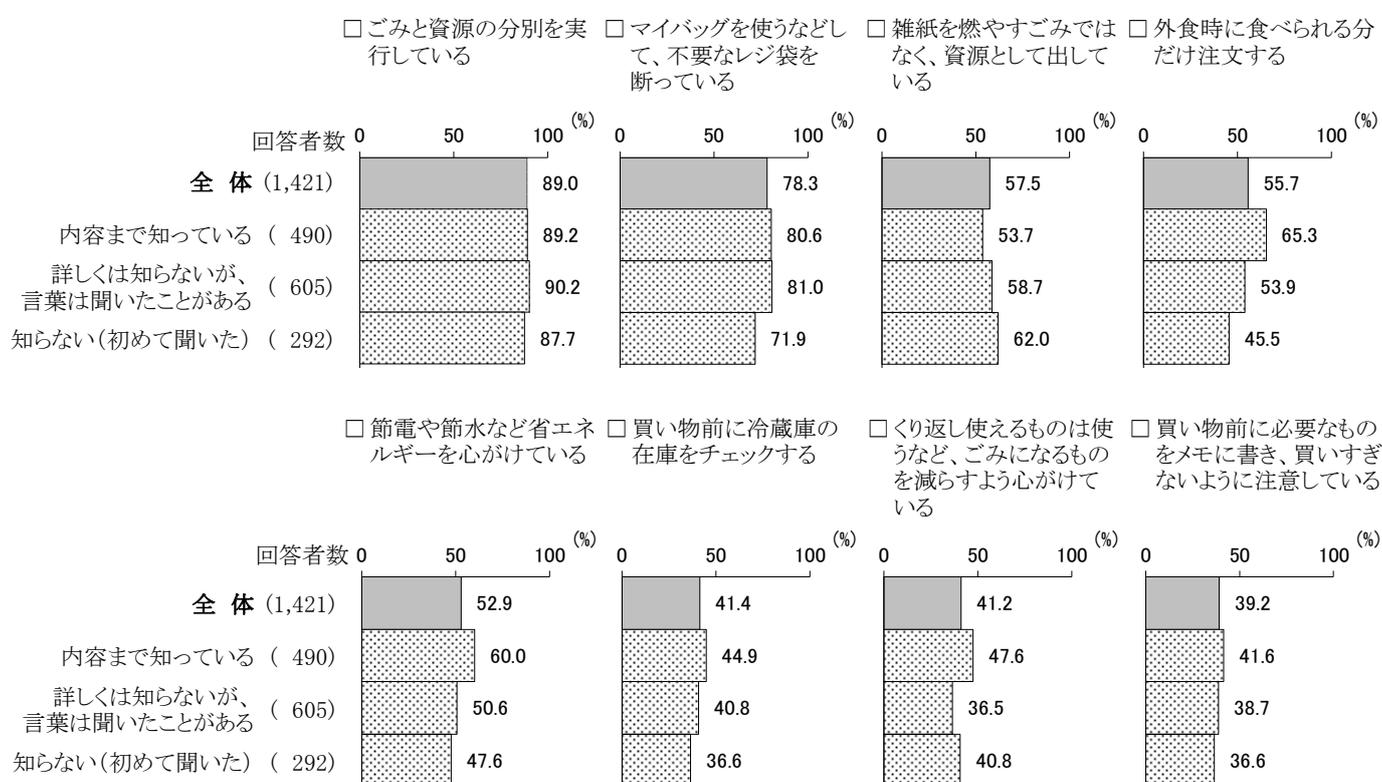
ウ クロス集計・SDGs認知度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目中4項目でSDGsの認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、SDGsについて「内容まで知っている」－「知らない（初めて聞いた）」のポイント差が大きい順に並べると以下のとおりとなっている。

- ①「外食時に食べられる分だけ注文する」（19.8ポイント）
- ②「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（12.4ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（8.7ポイント）
- ④「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（8.3ポイント）

（イ）一方、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」については、SDGsの認知度合いと反比例の相関がうかがえた。

図8-1-3 SDGs認知度別／環境のために心がけていること／上位8項目

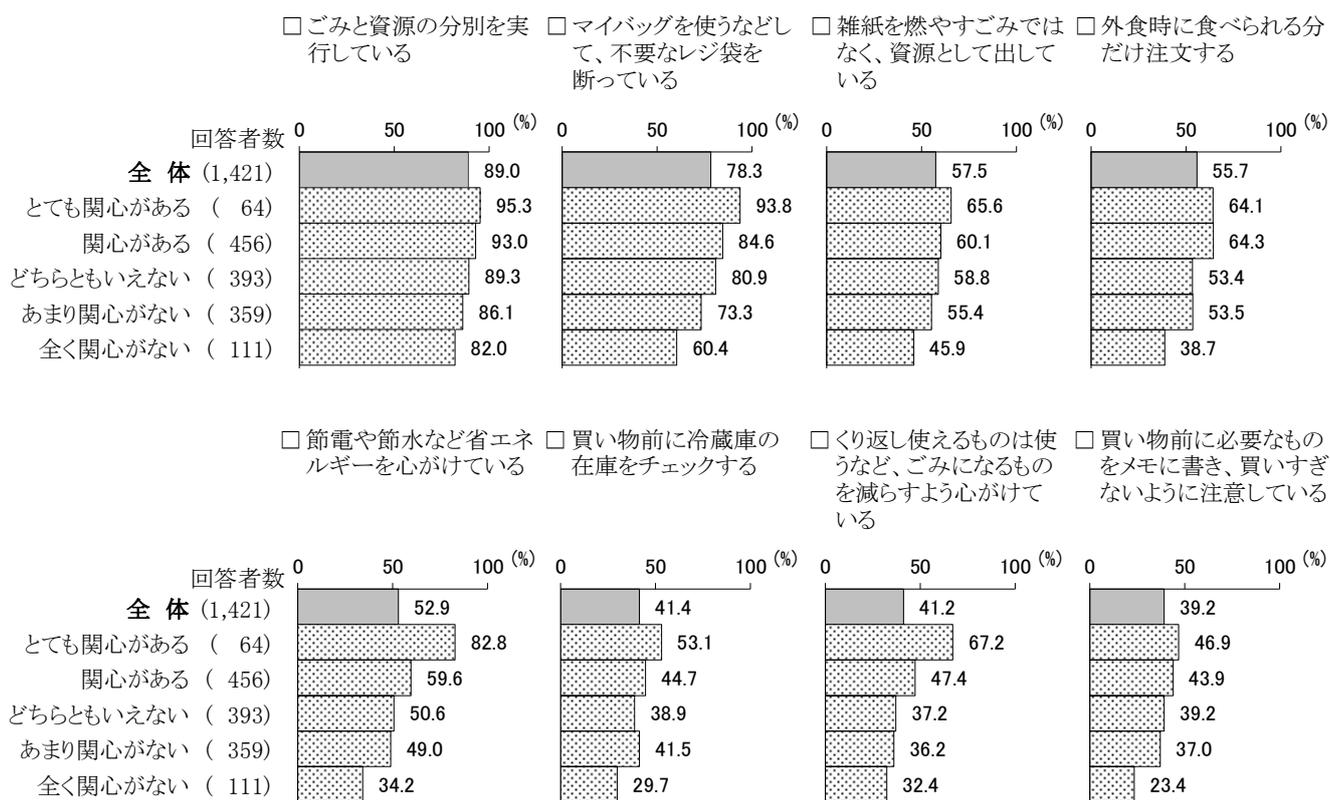


エ クロス集計・SDGs 関心度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目のすべてでSDGsの関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、「とても関心がある」－「全く関心がない」のポイント差が大きい順に並べると、以下のとおりとなっている。

- ①「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（48.6ポイント）
- ②「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（34.8ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（33.4ポイント）
- ④「外食時に食べられる分だけ注文する」（25.4ポイント）
- ⑤「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（23.5ポイント）
- ⑥「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（23.4ポイント）
- ⑦「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」（19.7ポイント）
- ⑧「ごみと資源の分別を実行している」（13.3ポイント）

図8-1-4 SDGs 関心度別／環境のために心がけていること／上位8項目



(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

問31 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していますか（○は1つだけ）。

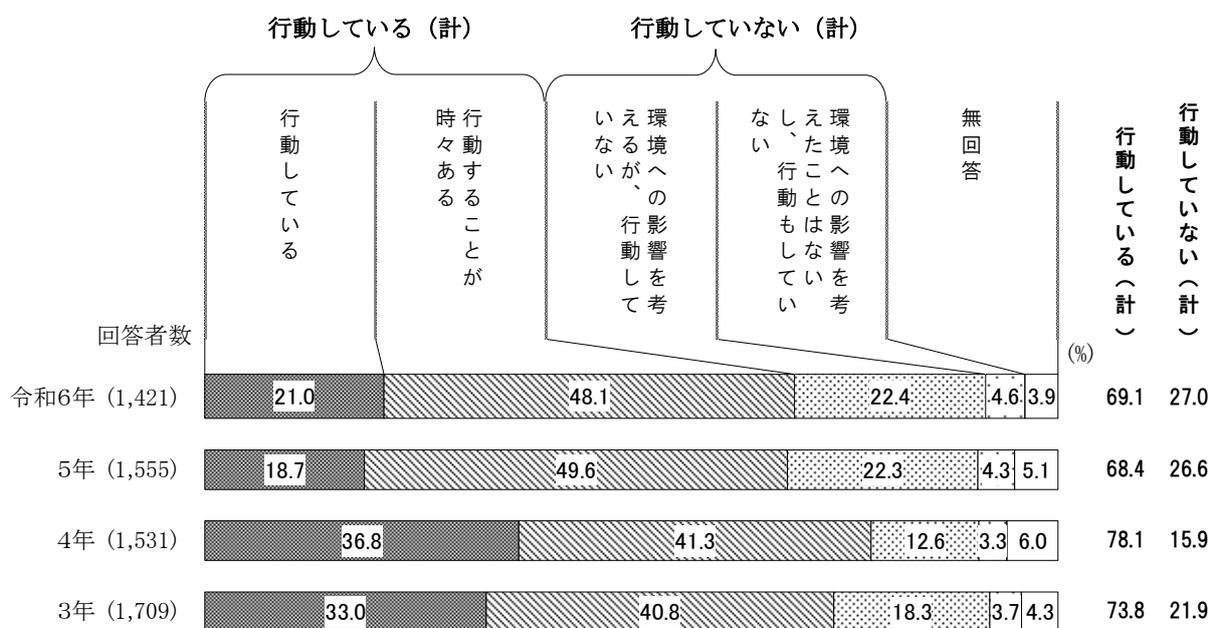
■【行動している】が約7割で、【行動していない】が2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 環境への影響を考えた日頃からの行動状況は、「行動することが時々ある」が48.1%で最も高く、これに「行動している」(21.0%)を合わせた【行動している】は69.1%となっている。一方、「環境への影響を考えるが、行動していない」(22.4%)と「環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない」(4.6%)を合わせた【行動していない】は27.0%となっている。

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図8-2-1 経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



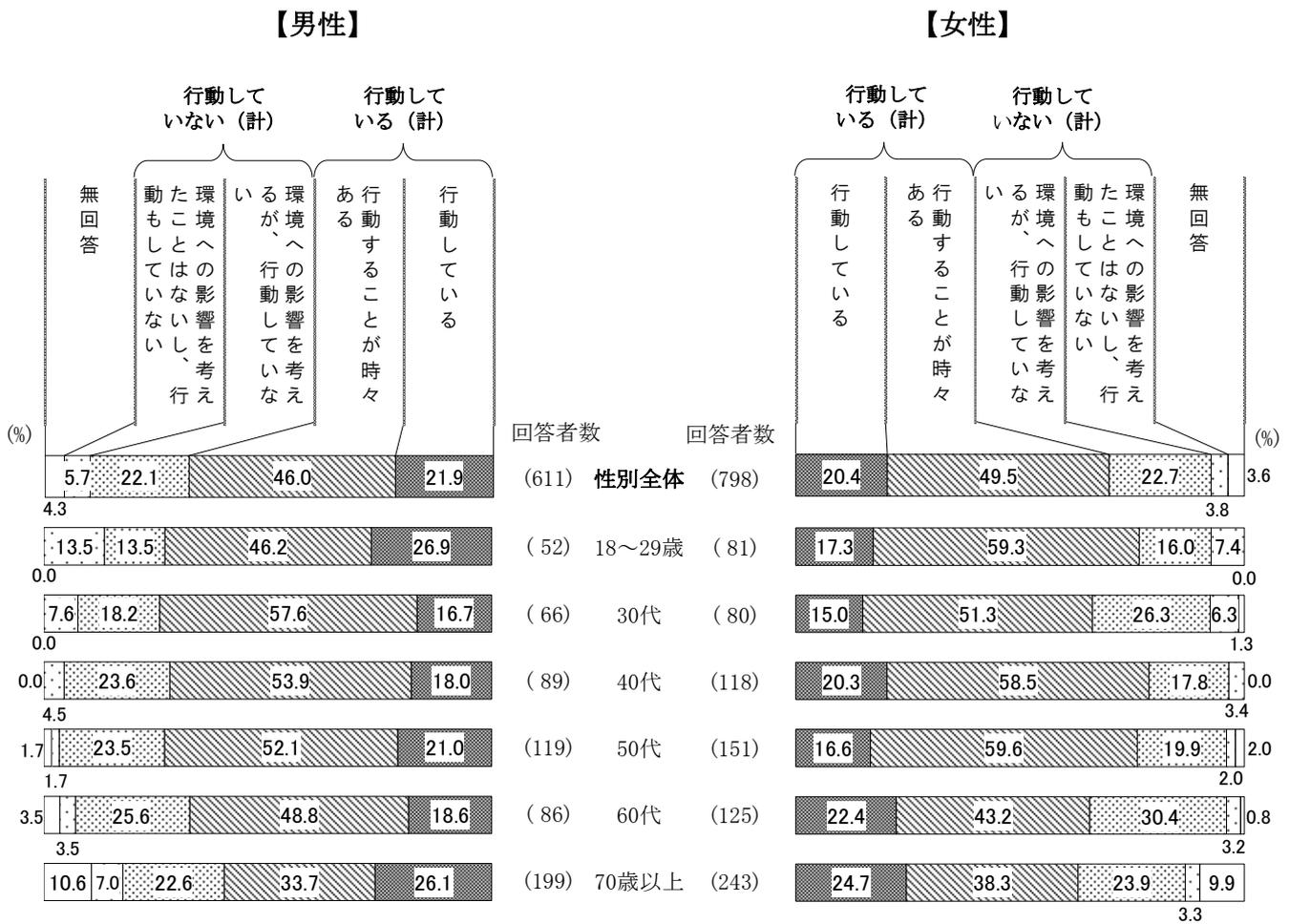
※令和5年調査で「行動している」の割合が急落している理由は、令和4年度調査以前の設問文において、「・・・具体的に行動(※)していますか。」とし、質問文の後に「※前問(今年度では問30)の1～8で示された内容のことです。」と注釈を加えていたことによって「行動している」への回答を助成したと考えられる。

イ クロス集計・性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【行動している】は女性の40代で78.8%と最も高く、次いで女性の18～29歳(76.5%)、男性の30代(74.2%)、男性の50代(73.1%)が続いている。一方、男性の70歳以上で59.8%と最も低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



(3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動

問32 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（○はいずれも、あてはまるものすべて）。

■「特に参加していない」が減少し、【引き続き、または今後参加したい】が増加

ア 単純集計・経年比較／この1年間に参加した活動

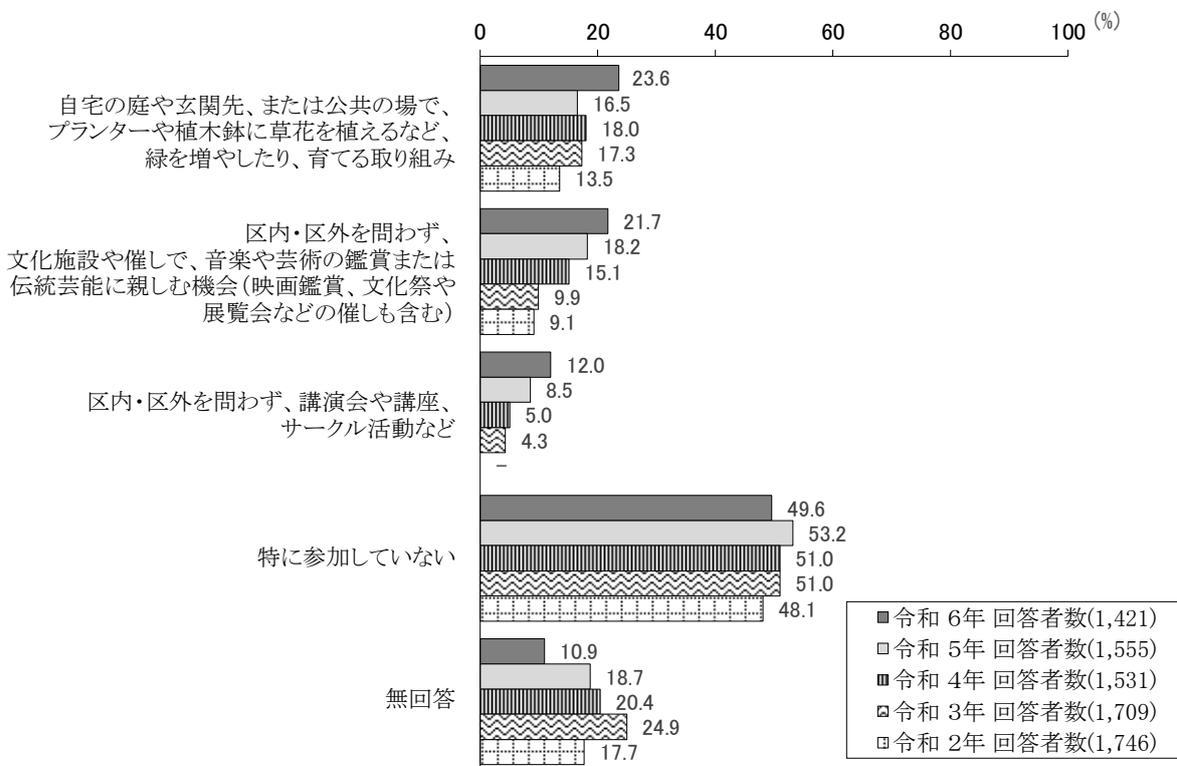
(ア) この1年間の参加状況は、「特に参加していない」が49.6%となっている。

(イ) 【参加した活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(23.6%)
- ②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(21.7%)
- ③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(12.0%)

(ウ) 前回調査との比較では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が7.1ポイント増加したのを始め、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」と「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が各3.5ポイント増加している。

図8-3-1 経年比較／この1年間に参加した活動



※「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」は令和3年度の新設。前回の令和5年度調査で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えた。

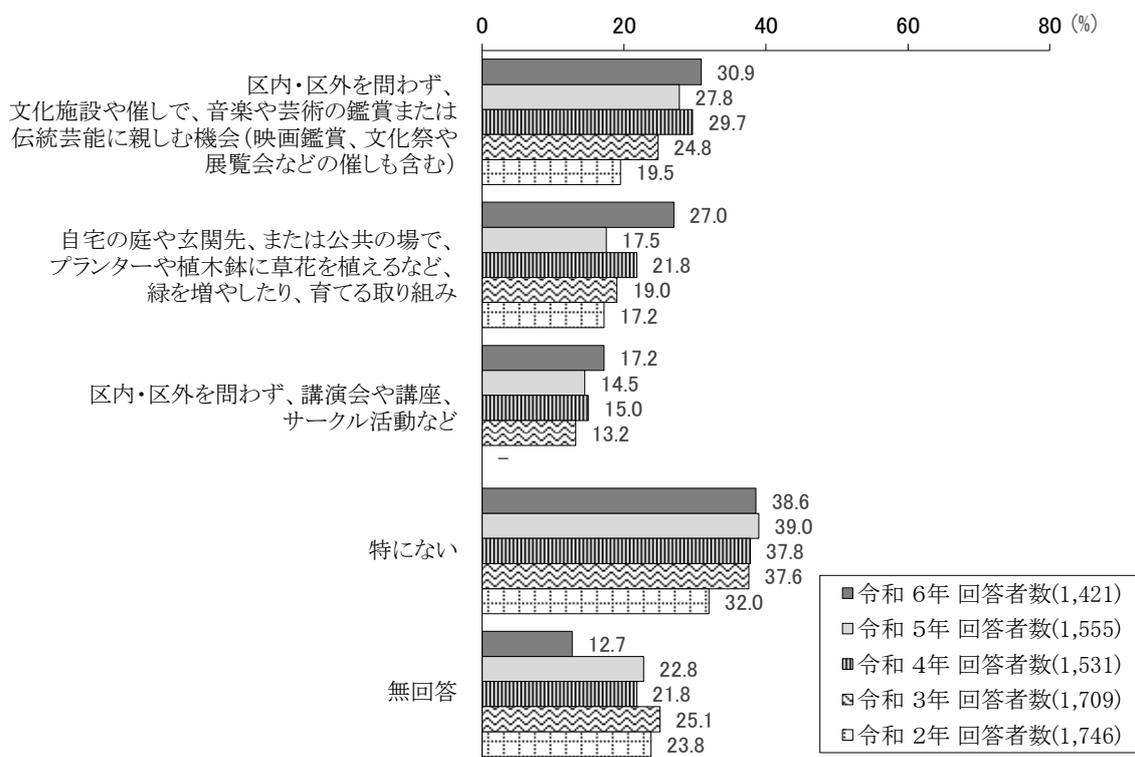
イ 単純集計・経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア)【引き続き、または今後参加したいと思う活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」(30.9%)
- ②「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(27.0%)
- ③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(17.2%)

(イ) 前回調査との比較では、すべての活動で増加しており、特に「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で9.5ポイントと大きく増加している。

図8-3-2 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動



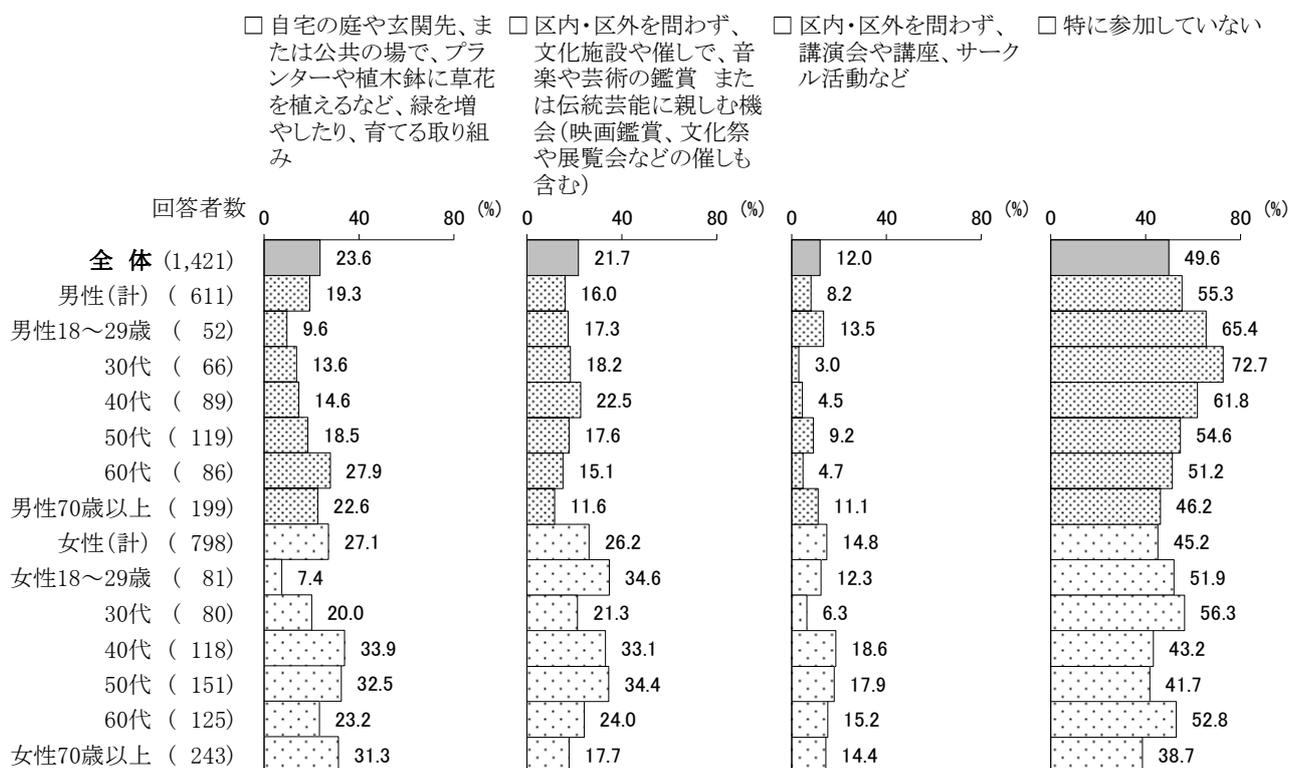
ウ クロス集計・性別、性・年代別／この1年間に参加した活動

(ア) 性別で参加状況を見ると、「特に参加していない」は男性（55.3%）の方が女性（45.2%）より10.1ポイント高くなっている。

(イ) 【参加した活動】について性別で見ると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（26.2%）の方が男性（16.0%）より10.2ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、「特に参加していない」は男女とも30代で高く、男性の30代で72.7%と最も高くなっている。「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の40代と50代で3割台と高く、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の18～29歳、40代、50代で3割台と高くなっている。

図8-3-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動



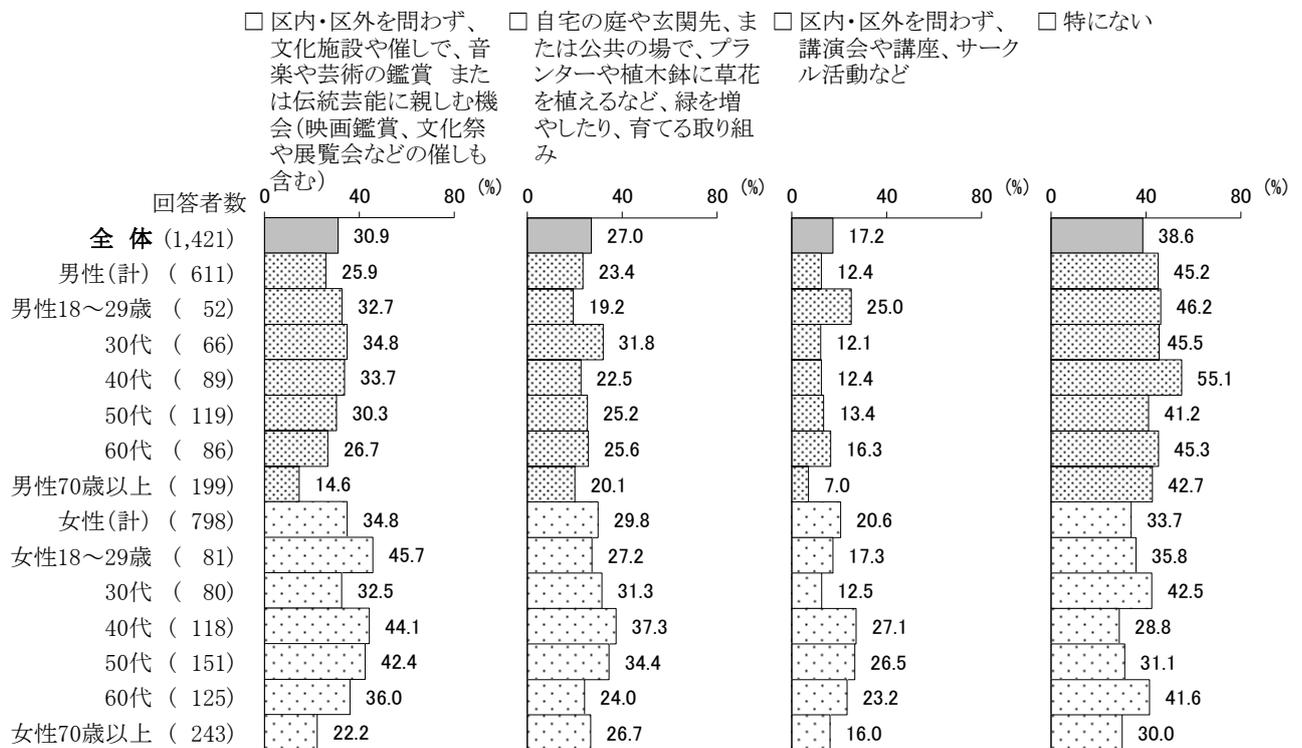
エ クロス集計・性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 性別でみると、「特にない」は男性（45.2%）の方が女性（33.7%）より11.5ポイント高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（34.8%）の方が男性（25.9%）より8.9ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別でみると、「特にない」は男性の40代で5割台半ばと最も高くなっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の18～29歳、40代、50代で4割台と高く「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の40代で3割台後半と高くなっている。

図8-3-4 性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

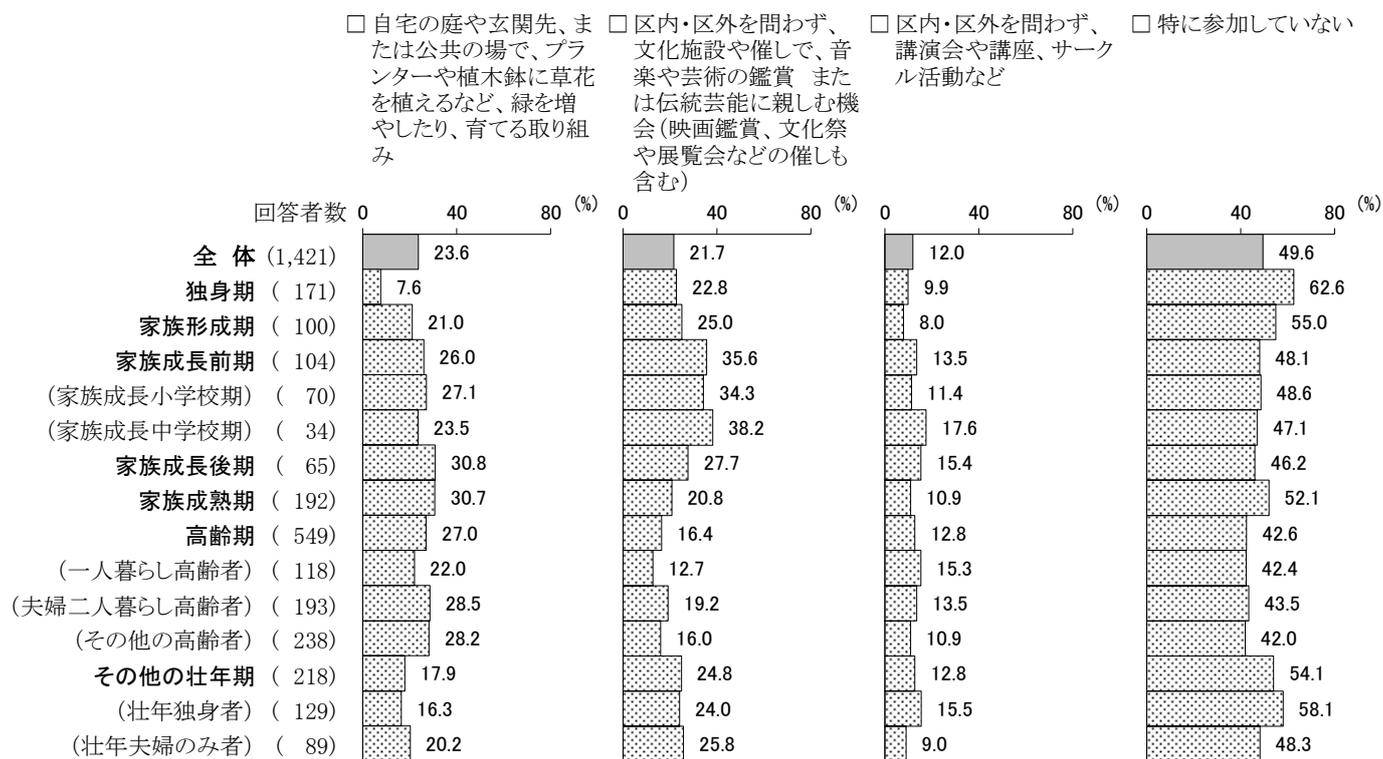


オ クロス集計・ライフステージ別／この1年間に参加した活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特に参加していない」は〈独身期〉が62.6%で最も高く、〈高齢期〉が42.6%で最も低くなっている。

(イ) 【参加した活動】では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長後期〉(30.8%)と〈家族成熟期〉(30.7%)で3割、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」は〈家族成長前期〉(35.6%)でそれぞれ3割台と高くなっている。

図8-3-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動



カ クロス集計・ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特にない」は〈独身期〉が45.6%で最も高く、〈家族成長前期〉が32.7%で最も低くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長後期〉が43.1%で最も高く、〈高齢期〉が21.3%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長前期〉が38.5%で最も高く、〈独身期〉が20.5%で最も低くなっている。

図8-3-6 ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

